

神の国の拡大 (要約)

祈り会 20250702

聖書箇所：使徒の働き 1:1-8

1. はじめに

「使徒の働き」はルカの福音書の続編であり、教会の誕生から福音がローマへと伝えられるまでの約 30 年間に記録されています。ペテロやパウロが中心に書かれていますが、名もなき多くの信徒の働きも欠かせません。その背景には神の摂理と聖霊の導きがありました。私たちもこの書を通して、神の御計画に従って生きることの喜びを学びたいと思います。

2. 聖霊降臨と教会の誕生 (使徒 1~2 章)

復活後の 40 日間、イエスは弟子たちに復活の確信を与え、神の国について語られました。「神の国」とは、神の支配が及ぶ領域を意味し、贖いと再臨を経て完成されるものです。しかし当時の弟子たちは、政治的メシア像にとらわれており、霊的な理解が乏しいものでした。

五旬節（ペンテコステ）の日、聖霊が降り、弟子たちは新しい契約に生きる者とされました。ペテロは大胆にメシアとしてのイエスの死と復活を語り、三千人が救われました。「あなたは生ける神の子キリストです」との信仰告白に基づく教会が誕生し、交わりと御言葉の学びが始まりました。

3. ステパノの殉教と信徒の離散 (使徒 6~8 章)

教会の成長に伴い、サタンによる教会の内外の問題も激化しました。ステパノは信仰と知恵に満ちた奉仕者であり、議論で勝てなかったユダヤ人たちにより訴えられ、殉教しました。ステパノは迫害の中でも天を仰ぎ、最後まで主を見上げていました。

ステパノの死を契機に信徒たちは散らされますが、逃げる中でも福音を携えて各地で宣教を行いました。ピリポはサマリアへ、ペテロは異邦人である百人隊長コルネリウスに福音を伝え、異邦人への扉を開きました。このペテロの体験が、後のエルサレム会議で「異邦人は律法や割礼を必要としない」との結論に至る重要な根拠となりました。